

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	21
問二	エ	22
問三	オ	23
問四	⑥	24
問五	⑨	25
問六	①	26
問七	②	27
問八	③	28
問九	④	29
問十	⑤	30

問一	ウ	21
問二	エ	22
問三	オ	23
問四	⑥	24
問五	⑨	25
問六	①	26
問七	②	27
問八	③	28
問九	④	29
問十	⑤	30

問一	ウ	21
問二	エ	22
問三	オ	23
問四	⑥	24
問五	⑨	25
問六	①	26
問七	②	27
問八	③	28
問九	④	29
問十	⑤	30

問十		
う	玲	基
と	於	と
し	奈	こ
て	に	の
い	一	場
る	人	か
。	で	ら
	泣	立
	く	ち
	時	去
	間	る
	を	こ
	あ	と
	げ	で
	よ	、

2

問十一	ア	35
-----	---	----

問一	イ	36
問二	A	37
問三	価値観	38
問四	B	39
問五	主体性	40
問六	主体性	41

問三	③	38
問四	イ	39
問五	エ	40
問六	⑨	41
問七	ウ	42
問八	ア	43

31
32
33
34

		5	4	3		
⑥	統計	①	ウ	ウ	問八	問五
	64	②	54	②	親	自
⑦	絵札	②	エ	イ	に	分
	65	③	55	③	対	に
⑧	貸	③	オ	ア	し	は
	66	④	56	④	て	コ
⑨	易	④	ア	カ	秘	問六
	67	⑤	57	⑤	問九	イ
⑩	欠	⑤	イ	オ	イ	問七
	68		58	⑥	問十	工
				工	45	43
				52	46	44
				53	47	

(配点)

{ ①〔問四〕各2点、〔問十〕8点、他各5点 }
 { ②〔問三〕各2点、他各5点 } 計150点
 { ③④⑤各2点 }

【解説】

1 額賀澤『風に恋う』（文藝春秋）から出題しました。ソロパートをめぐり、基と玲於奈が真剣に勝負する姿がえがかれています。互いを思いやりながらも、勝敗を決めなければならない登場人物たちの、それぞれ葛藤する心情を丁寧に読みとりましょう。また、雨の描写が登場人物たちの心情をうまく表現していたり、基や玲於奈の演奏がどんなものか、比喻をつかって表現したりしている点にも注目しましょう。

問一 B1 具体化 比較

玲於奈の食ってかかるような口調や、——線①の直後の「オロボエを持っていない方の掌を玲於奈が握り込む」から、瑛太郎の発言に対する玲於奈のいらだちを読みとりましょう。玲於奈はソロをめぐって懸命に練習してきたからこそ、大会を明日にひかえているのにまだソロが決まっていないことにいらだっているでしょう。ア「演奏を聞き比べる気がない」イ「ソロを担当することができず」エ「これから始まるだろうオーディション：意気込む」などの部分が本文中には描かれていません。

問二 B1 具体化 比較

「ぎこちなく」という表現から、瑛太郎が無理をして笑っていることが分かります。3ページの下段で、自分でも一人にしぼらなければならないと分かっているにも関わらず、「二人で吹かせてやりたかった」「ソロを前半と後半で分けるとか、掛け合いにするとか：ここ数日、ずっと考えてた」と告白していることから、どうしても決断できずどうにもならな

くてこまっているのでしょうか。ア「玲於奈のあまりのけんまく」、「自分の非をごまかそう」イ「どちらが：話し合って決めるように話を持っていこうとして」、ウ「優劣を決めることのはからしさ」などの部分が本文中から読み取れません。

問三 B1 置換 比較

指示語の問題なので、直前の内容をそれぞれ確認してください。——線③の「それ」は本来決定を下すべき瑛太郎が「君達はどうしたい」と玲於奈たちの意向を聞いてきたことに対して、玲於奈がその質問の意図を確認しているセリフで使われています。——線④の直前の「それは、私と：決めるってことですか」を受けて「それでもいい」とありますから、「基と玲於奈の二人で、どちらがソロを担当するか決めること」を指しています。——線⑤の「それ」は直前の「私が言った」こと、つまり、玲於奈が望むソロ選出の方法を指しています。

問四 A2 知識

⑥の直前に「じゃあ：同時に言ってみようか」とあり、基が案をだし、「セーの」と声掛けをしています。「音頭をとる」は人の先にたつて、計画したり、世話をしたりすることです。⑨「名残惜しい」とは、心残りして、別れるのがつらい気持ちを表現した言葉です。

問五 B1 具体化

——線⑦の二段落前に「どうやら：最後のオーディションをするつもりようだ」とあり、それを受けて——線⑦の「フロアにいるみんなも気づいていた」とあります。

問六

A1 知識

「〇ール」の形の外来語の問題です。ふだんから耳にした
り、目にしたりする外来語の意味は押さえておきましょう。

問七

B1 具体化

——線⑩の「見えて」の後の演奏のシーンに「胸の中に滞留
する精一杯の祈りを、音にのせる。自分は不破瑛太郎と音楽
を続けるために全日本のステージに立つ。ソロを吹く」とあ
ることから、基はソロのステージにかかる自分の思いをのせ
て演奏していることが分かります。「最後だとか、来年もあ
るとか、そんなんじゃない」、「僕は、全力で玲於奈に勝つ」
とあるように、いまこの瞬間の演奏で玲於奈と真剣に勝負し
たいという基の強い気持ちをやみとりましょう。ア「自分が
ソロを演奏することにこだわらず」、ウ「自分との実力の差
をはつきり見せつけるべき」、エ「玲於奈よりもすぐれた技
術を持っている」「勝ち取れると確信」などの部分が不適切
です。

問八

A2 知識 比較

「□を食いしぼる」は、玲於奈に落選を伝える苦しさを
我慢する瑛太郎の様子をあらわした表現ですから、「歯を食
いしぼる」ということばです。選択肢はそれぞれ、ア「後足
で砂をかける」（別れる時に人に迷惑をかけること）、イ「鼻
を明かす」（相手のすきについてびつくりさせること）、ウ
「歯が立たない」（かなわないこと）、エ「顔から火が出る」
（非常に恥ずかしくて顔が真っ赤になること）です。

問九

B1 具体化 比較

——線⑬の「ちよつと一人になりたい」と「笑みまでこぼし
ながら」とあることに注目しましょう。ここから玲於奈の、
一人になりたいという気持ち、そして絶対に基や瑛太郎の前
で泣きたくないという気持ちを読みとりましょう。一人にな
ってから何十分も泣き続けているということからも、——線
⑫・⑬の玲於奈の一連の言動は精一杯の強がりです。そのこ
とから、ア「自分の弱さを：見つめ直したい」、イ「腹立た
しさがおさえられない」ウ「結果をなんとか納得できたので
：気持ちを切り替え、：前向きに」などの部分が不適切です。

問十

B2 具体化 理由 推論

——線⑭の後の瑛太郎と基の行動に注目して読みましょう。
トイレに行くことを口実に、この場を離れ、玲於奈が一人で
存分に泣けるような時間と場所を与えたことが分かります。
問いかけにある、「～ことで、～しようとしている」の形で
答えるとうまくまとまります。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正
解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、
二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。ま
た解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問十一

B1 具体化 比較

3 ページの下段で、基が葛藤しながらも「ぶつかり合うか
ら、音楽は輝く：敗者が出て：磨かれていく」、「ぶつかり合
うから、僕は昨日までの自分になかったものを手に入れる」
と、繰り返ししていることに注目しましょう。仲間と競い合う

苦しみを受け入れ、切磋琢磨するからこそすばらしい演奏ができる」と自分に言い聞かせています。そこから、答えはアです。イ「勝った基は一生懸命に練習するしかない」、ウ「玲於奈の気持ちは考えないようにしよう」は本文中から読み取れません。エ「敗者のつらさを忘れてはいけない」と自分に言い聞かせているわけではありません。敗者（Ⅱ玲於奈）のつらさは、「玲於奈の泣き声が」基と瑛太郎の体を切り刻むように、ずっと聞こえていた」とあるように、基自身痛いほどわかつていることです。

2 榎本博明の『「さみしさ」の力 孤独と自立の心理学』（筑摩書房）から出題しました。筆者は、親に反抗することは、自分なりの価値観が育ち主体性が育ってきていることの証拠であること、そして、親に対して秘密を持つことによって、親子間に世代間境界が設定され心理的自立が叶う、ということとを説明しています。筆者が引用している文は抽象的な表現で、難解なことがならんでいます。しかし、それを筆者が具体例をとりいれながら分かりやすく説明しています。このように、抽象を具体に言い換えるという構造がくりかえされていることに注目しながら読み進めていきましょう。

問一 **B1** 具体化 比較

親を「偶像視」するとは、第一段落にあるように、幼い子どもが親を「自分を包む大きな存在」「絶対的存在」「不動の心をもつ頼れる存在」としてとらえることを指しています。選択肢の中でイだけ、反抗期を迎えた子どもにとっての親の存在について説明されています。

問二 **B1** 理由

——線②のようになるのは、直後にあるように「自分」ができてきている証拠です。では、この「できてきている」「自分」とは何なのか。ここで、《③》の後の「いわゆる反抗期になったのだ」から、それまでの説明のまとめが始まっていることに注目しましょう。そこを読み進めると、「できつつある」「育ってきている」のは「自分なりの価値観」であり「主体性」であると示されています。

問三 **A2** 関係づけ 知識

前後の文の関係をよく確認して入れましょう。《③》の前で「小学生の頃は…ありがたく思うことが多かった」とあり、後で「中学生くらいになると…鬱陶しく感じ、反発」とあるので、逆接の「ところが」が入ります。《⑧》の前で「自分の思うようにしたいと自己主張すること」とあり、後で「自分の意思を押し通そうとすること」と前のことばを言い換えていますので、「つまり」が入ります。《⑨》をふくむ一文は「親と怒鳴り合ったり…激しい反抗をしたという者もいる」とそういう人が一部いることを認めている文です。ここには譲歩の意味である「たしかに」が入ります。そのように譲歩した上で、「多くの場合…間接的な反抗の形を取る」という文につながっています。

問四 **B1** 理由 比較

——線④の直後に、——線④に対する筆者の解釈が書かれていることに注目しましょう。そこには「心の中で何を考えているかは外からはわからない」とあります。また、考える

ことが高度になってくると、「親にも窺い知れない自分独自の世界ができて」きて、そうなると、子どもは親には「コントロールできない存在」になる、とあります。すなわち、「考える」人の内面を他人はうかがい知れないので、考えることが高度になってくると、周りの人たちは、その「考える」人のことがわからなくなると、いうことを「己を隠す」と表現しているのが答えはアです。イ「周囲の人と交流する場にいられなく」、ウ「周りの人から避けられたり、遠巻きに見られたり」、エ「考えることで、自分の気持ちをコントロールできるようになる」などの部分は本文中からは読み取れません。

問五 B1 理由

——線⑤の内容を筆者が具体的に説明した部分を読みましよう。——線⑤の前に書かれてある、筆者の解釈の部分です。そこには、「青年期に突入した子をもつ親」が「自分にはコントロールできない存在になりつつあるわが子との間に、見えない壁がある」ことを不満に思っていることが書かれています。

問六 B1 具体化 比較

「惑わされ」は、「だまされて」ということ、「迎合する」とは相手の気に入るようにふるまうことです。そこから考えると答えはイです。ア「大人から見たい子」を育てるべきだと思いきみの部分が前半の内容と合っています。ウ「何もできない赤ちゃんのように育て」、エ「ほめることやつきになって」ということばと「迎合する」がそれぞれ

合いません。

問七 B1 理由 比較

神谷美恵子「人間をみつめて」の引用文の後で「結局…」と筆者がまとめている部分から考えましょう。すると、「反抗しない者には押し通すような意思がない」「自分なりの考えをしっかりとつけないため、親の言いなりで平気」とありまから、答えはエです。ア「楽な道を選び、強いものにこびへつらう」、イ「怒りをやりすぎず体験ができないので」、ウ「弱気な大人になってしまふ」などの部分が本文中には示されています。

問八 B1 具体化

——線⑩をうけて、次の段落で「僕の場合も」と「間接的な反抗」の内容を具体的に説明していますので、そこから答えを考えます。すると、「ただ…親に対して秘密をもつようになった」とあります。「親の侵入を許さない」自分の領域を確保することは具体的とはいえません。

問九 B1 理由 比較

「世代間境界の設定」とは、子どもが親に対して秘密を持つことです。——線⑪の二段落後で、「秘密をもつことによつて、親の侵入を許さない自分の領域を確保することができ、親から心理的に分離独立した存在になっていく。それは心理的自立の典型的な道筋である」とあります。さらに次の段落で「秘密をもつようになるのは…心が順調に発達していることとの証拠」と簡単に言い換えています。「世代間境界の設

定」をすること（親に秘密を持つこと）は心が順調に発達していることの証拠であり、「心理的自立」の第一歩であるということです。ア「上下関係を持ち込む」、ウ「激しいやりとりをして」、エ「親と対立」などが「世代間境界を設定する」の意味からずれています。

問十 B1 関係つけ

もともと本文中にあった段落には、親は知らない秘密を友達と共有していた思い出が書かれていますので、親に対して秘密を持つことの具体例が示されている部分に入ります。かつ「また」というつなぎことばがあることから、《エ》に入ることが分かります。

3 A2 知識

語の識別の問題です。このような問題を解くとき、その語が文の中で主語・述語・修飾語のどれにあたることばか、また「活用」するかしなかに注目するとうまくなります。活用とは、文中での用いられ方によって、言葉の形がいろいろに変わることを行います。たとえば「読む」という言葉も、「本を読まない」「本を読みます」「本を読む」「本を読むとき」「本を読めば」「本を読め」などのように、「読ま」「読み」「読む」「読め」と変化しますよね。これが活用です。名詞・連体詞・副詞・感動詞・接続詞は活用しません。動詞・形容詞・形容動詞は活用します。

- ① 「ください」という動詞を修飾していて、活用しないので、副詞です。
- ② 「まじめな」とも活用できるので、形容動詞です。

③ ものの名前なので、名詞です。

④ 活用でき、言い切りの形が「続くーウ」と最後の音をのばすとウ段で終わるので、動詞です。

⑤ 「宝石」という名詞を修飾していて、活用しないので、連体詞です。

⑥ 言い切りの形が「〜い」で終わり、名詞を修飾しているので、形容詞です。

選択肢の品詞については以下の通りです。ア「続き」は転成名詞。イ「健康な」は言い切りの形が「健康だ」となる形容動詞。ウ「もし」は活用せず、「晴れたら」を修飾しているので、副詞。エ「小さかつ」を言い切りの形に直すと「小さい」となるので、形容詞。オ「ふくろ」という名詞を修飾し、活用しないので、連体詞。カ「わかり」を言い切りの形に直すと「わかる」になるので動詞。

4 A1 知識

熟語の組み立ての問題です。上下の漢字の関係を整理しましょう。

- ① 新年⇨新しい年…上の漢字が下の漢字を修飾している。
- ② 消火⇨火を消す…下の漢字が上の漢字の目的語である。
- ③ 頭痛⇨頭が痛い…上の漢字が主語、下の漢字が述語。
- ④ 大小…上の漢字と下の漢字の意味が逆になっている。
- ⑤ 豊富…上の漢字と下の漢字の意味が似ている。